

文化・芸術

「モンパルナスの裏通り」

1927年、油彩、カンバス
72・7センチ×60・6センチ
(個人蔵)

佐伯祐三 (1898～1928年)

1928年、30歳でパリに没した佐伯祐三。本作は、その前年、2度目の滞在中に描かれた一点です。画面の街路は、左右の建物のたたずまいから、リュ・トゥールヌフォール(パリ5区)のなだらかな坂道と推察されています。

朝から夕暮れまで街を歩き、描き続けた佐伯。くすんだ空と石造建築の重さの中で、右手の白壁がひとときわ強く光を放ちます。抑えられた色の広がりの上に鋭く跳ねる線が走り、看板や文字のリズムが画面に緊張と高揚を生み出しています。そこには、繊細さと大胆さが交錯する、佐伯独自の表現がうかがえます。

本作は、パリ時代を代表する一点でありながら、29年の遺作展以降、長く所在不明でした。およそ100年ぶりの公開となります。

展示は3月29日まで。

(小此木)



《名画の扉》

大川美術館企画展
「没後70年記念 茂田井武「ton
paris」とパリの画家たち」から